

特集 令和元年の交通事故 死者数の特徴と対策

警察庁から公表されている「令和元年における交通死亡事故の発生状況等について」には、全体の死者数は減少傾向にあるものの、引き続き高齢者が占める割合が高いなど、最新の状況が示されています。また、この状況を受けて令和2年の「本年の取組」も合わせて公表されていますので、この機会に確認いただき、日頃の安全運転に役立ててください。

1. 交通事故死者数の推移と高齢者の割合

(1) 令和元年中の交通事故死者数は、**3,215人**で、昨年度より317人減少し、警察庁が発表を始めた昭和23年以降の統計で最少人数となりました。しかしながら、そのうち高齢者(65歳以上)は、**1,782人(55.4%)**を占め、過半数を占める状況が継続しています。



※警察庁「令和元年における交通死亡事故の発生状況等について」

https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/jiko/R1shibou_tokucyo.pdf (2020.4.17.閲覧)

(2) 昨年度の特徴は次の4点で、なかでも高齢者の自転車乗用中死者の増加が目を見せます。

- ①交通事故死者数は減少 : -317人 (-9%)
- ②高齢者の自転車乗用中の死者数は増加 : +5人 (+1.7%)
- ③75歳以上の高齢運転者による死亡事故件数は減少 : -59件 (-12.8%)
- ④飲酒死亡事故件数は減少 : -22件 (-11.1%)

2. 歩行中、自転車乗用中死者の高齢者割合

死亡者数全体の55.4%を高齢者が占めていますが、歩行中と自転車乗用中については、65歳以上の高齢者の割合は約70%に達し、非常に高い割合となっています。

	高齢者(65歳以上)	それ以外(65歳未満)	合計
歩行中	803人(70.4%)	338人(29.6%)	1141人
自転車乗用中	297人(69.6%)	130人(30.4%)	427人

3. 本年の取組

警察庁は「本年の取組」として以下の4点を掲げています。具体的な運転行動例とも合せ安全運転の参考にしてください。※

○ 横断歩行者対策

⇒横断歩道では、一時停止を基本に運転しましょう。



○ 生活道路を含む速度取り締まり

⇒ゾーン30など、歩行者や自転車が中心の道路の通行はできる限り避けましょう。

○ 自転車の安全対策

⇒飛び出しや急な右左折などを予測して運転しましょう。



○ シートベルトの着用の促進

⇒後部座席も必ずシートベルトを着用しましょう。

※警察庁「令和元年における交通死亡事故の発生状況等について」

https://www.npa.go.jp/publications/statistics/koutsuu/jiko/R1shibou_tokucyo.pdf (2020.4.17.閲覧)

★新型コロナウイルス感染拡大防止対策の影響で、散歩やジョギング、自転車の利用が増加しているように見受けられます。車の速度を抑え、相手の思わぬ動きに注意しましょう。



損害保険ジャパン株式会社

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-japan.co.jp>

SOMPOリスクマネジメント株式会社

〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-24-1
 <公式ウェブサイト> <https://www.sompo-rc.co.jp>

お問い合わせ先

帝人エージェンシー株式会社 保険部
 〒550-8587
 大阪市西区土佐堀1-3-7
 肥後橋シミズビル16階
 TEL 06-6459-5100 FAX 06-6459-6045
 E-mail hoken@tei jin.co.jp